

マンデー経済ウイークリー

高機能アイデア商品登場

障害者の外出後押し



「ショルターベルト」「アルクトモ」



ショルターベルトにつえを引っ掛けて携帯電話を使う遠藤一代吉さん

障害者の外出を後押しするアイデア商品が登場している。実際に利用する立場から発案、機能を高めてデザインも工夫されている。製造・販売する企業は「高齢者向けのビジネスの拡大にもつながる」と期待を寄せる。

自分の足で故郷へ

湿布剤が主力のテイコクファルマケア(香川県東かがわ市)は今年5月、歩行用のつえを引っ掛けられる「ショルターベルト」「アルクトモ」(9800円)を発売した。

脳梗塞で左半身が不自由な都内在住の遠藤一代吉さん(63)が使っている。つえは階段の上り下りや財布を出す際に邪魔なため、身に着けたストラップに掛けると便利だ。

遠藤さんは開発段階でベルトを着け、一人でバスに乗り故郷の福島県喜多方市に暮参りに「引きこもりが外出できるのがうれしい」と話す。アイデア商品のコンサルタントや開発を手掛ける「発明ラボックス」(東京)の松本奈緒美代表が試作。テイコクファルマケアの笠井幹哉社長と協力し「周囲の人や物に引っ掛からない」「電車のドアに挟まれたら、ベルトが体から外れる」など安全性を重視した。

NPOと開発

繊維加工の「鈴木工芸所」(浜松

使う立場で発案／デザイン重視

市)は今年8月、新ブランド「A DOM」の第1号として、車椅子に乗る女性がいやすいバッグ(送料込み1万4018円)を発売した。インターネットで購入できる。

車椅子に取り付ける際は巻き付けた付属ベルトにバッグのフックを引っ掛ける。ベビーカーでも利用できる。

障害のある女性のおしゃれや恋愛を特集する雑誌「C.O.C.O. Life☆女子部」を発行するNPO法人「施無畏」と開発。10〜30代の読者モデルにヒアリングしたところ「見た目も大事」「片手でも開け閉めしやすいファスナー」「肩に掛けても痛くない幅のストラップ」などの声が上がった。

アイデアを出した一人のモデル、みゆうさん(19)は、車椅子に簡単に付けられ、携帯電話や財布、化粧品が入るバッグが一般の店で見つからず不便だった。

開発リーダーを務めた鈴木工芸所の井上太美次さんは「必要とする人の意見を取り入れたおかげで、ニーズに応えられた。今後も新商品を作りたい」と話している。

障害者の外出 身体や精神に障害があっても、できるだけ自分の力で歩行や移動をする人は少なくない。道具や機器の活用だけでなく、周囲の配慮が大きな支援になる。



車椅子に乗る女性がいやすいバッグを開発した鈴木工芸所の井上太美次さん



バッグを使うみゆうさん

起業家たち

保育園児や小学生を放課後預かる学童保育施設「えすこーと」を東京都内で4カ所運営している。仕事を終えた保護者が迎えに来るのを待つだけではなく、この時間を利用して子どもにも勉強する習慣を身に付けてもらう。

対象は2歳から12歳まで。通常は午前1時から午後8時まで子どもを預かる。おやつを食べたり一緒に遊んだりする。

セネジー(東京)

真崎 今日子さん



「えすこーと」の教室に立つ真崎今日子社長(東京都渋谷区)

ることに加えて、一定時間、学校の宿題をしたり独自の教材を使った学習をしたりする。預かっている子どもは約20人。都内の有名大学の学生などアルバイトを含め、約50人のスタッフが勉強を指導。外国人講師による英会話や、専門講師による理科実験教室なども別途、開催している。

夏休み期間にはスタッフが子どもを引率して、博物館や

気になる商品

肉や野菜をバランス良く食べられる鍋料理は、秋から冬の食卓に上がる機会が多い。容器入りの鍋のつゆを使えば、だしを取ったり味付けに気を使ったりする必要がなくて便利だ。メーカーは、家庭で手軽に本格派の味を楽しめるように材料や調味料にこだわった商品を発売している。



鍋のつゆ 材料や調味料にこだわり

レ 右 キ と 味 ス い け わ い 昆 い 豚 も 立 崎 類 混 酒 味 同